

横浜創英短期大学 きめ細かい指導体制で 学生のマイクロソフト オフィススペシャリスト 取得を支援

1989年、当時としては珍しい情報系学科を学び舎の核として開学した横浜創英短期大学。以来20年近くにわたり、高度情報化社会に即応できる実務者を育成し、世に送り出してきました。そうしたなか、2004年よりMicrosoft® Office Specialistの試験を学内で受験できる体制を整え、必須のビジネスソフトであるWord、Excel®を使いこなすことの有用性を学生に訴え続けています。

情報リテラシーの習得度をはかる目安として ——2004年より学内受験をスタート

横浜市緑区の閑静な住宅街に、緑豊かなキャンパスを構える横浜創英短期大学。同校は、2年制の情報学科と3年制の看護学科よりなり、情報学科は、医療・介護現場で役立つ情報スキルを身につける情報医事コース、健康・美容産業におけるIT化に対応する知識や技術を学ぶ健康サポートコース、ビジネス知識からデザイン、ITスキルまで幅広い能力を身につける情報コースの3コースに分かれています。この情報学科で、Microsoft Office Specialistに対する取り組みをはじめたのは2002年頃。情報学科の橋本雄幸教授は、その経緯を次のように説明します。

「情報学科では、1年次に全コース共通の情報リテラシーという科目があり、そのなかで前期にWord、後期にExcelを学んでいましたが、以前から、“その授業でどんな資格を目指せばよいか”という議論がありました。そうしたなか、Microsoft Office Specialistという最適な資格があるから、それを目指すように授業体系を組み替えてはどうかという意見が会議で出され、2002年頃から授業の内容をMicrosoft Office Specialistの試験に合わせて少しずつ変えてきました」

そして、2003年には橋本教授自らがMicrosoft Office SpecialistのWordとExcelのエキスパートレベルを取得し、2004年からは学内で受験できる体制が整えられました。併せて、実験的にMicrosoft Office Specialistの資格取得(合格)をもって単位を認定するというカリキュラムを組んだところ、情報学科のほぼ全員が受験しました。2005年からは、資格試験に対応した授業を続けながらも、試験と単位認定は切り離し、放課後週1回の補講と、夏休みおよび春休み中の補講での受験

対策が実施されています。

熱心な先生方による、きめ細かい指導 ——合格率は、ほぼ100%

現在、情報学科の全学生は、情報リテラシーのWordの授業では、

- ビジネス文書のルールを把握して自分で作成できること

が目標とされ、また、Excelの授業では、

- グラフやピボットテーブル、VLOOKUP関数などといった代表的な機能を用いたデータ処理やビジネス文書の作成ができることを目標に、Microsoft Office Specialistの試験に沿ったかたちでのカリキュラムが進められています。また、1年生の後期にはAccess™を使うデータベースの授業が、2年生の後期にはPowerPoint®を使うプレゼンテーションの授業があり、そこではそれぞれMicrosoft Office Specialistの内容が取り入れられています。2009年度からは、学生の就職活動などを鑑みて、プレゼンテーションの授業を1年生の後期に早める予定にあり、そうすることで1年次に4つのビジネスソフトの基礎が一通り学べるようになります。

また、資格試験対策の補講については、

「学生には、模擬試験問題を中心にやらせており、その模擬試験で9割がたできるようになるまで練習を繰り返します。そのように確実に受かるレベルまで力がついた時点で受験日を決めているので、当校で受験する学生の合格率は、ほぼ100%です」

このように、個々の学生のニーズや習得度に応じた親身な指導は、Microsoft Office Specialistの試験に関してだけではないと言えます。補講にしても、さまざまな資格試験に応じた講座が用意されており、夏休み中はど

横浜創英短期大学 <http://www.soiei.ac.jp>

所在地 神奈川県横浜市緑区三保町1番地

学生数 約400人。情報学科1学年/約80人(2年制)、看護学科1学年/約80人(3年制)。

1940年、学校法人堀井学園創設。1989年、横浜創英短期大学開学(情報処理学科)。

2004年、情報学科へ名称変更。2007年、看護学科増設。

教育理念「考えて行動できる人」に基づき、単なる知識の押しつけではない、それぞれの人間性を開花させることに重きをおいた教育を目指している。



取材ご協力
横浜創英短期大学
情報学科
教授 橋本 雄幸 さん

の先生も週1、2回は補講を受け持っているそうです。こうした熱心な先生方による、きめ細かい指導体制は、横浜創英短期大学の一つの特徴になっています。

資格取得＝単位認定の制度復活を検討中

——情報学科の全員合格を目指して

情報学科は、情報医事コースならば医療秘書実務士、健康サポートコースはアロマセラピー検定、そして情報コースの場合は上級情報処理士等々、各コースに応じて最終的に目指す資格や進路は異なります。しかしMicrosoft Office Specialistは、どのコースの学生にとっても取得する意義がある資格だと、橋本教授は強調します。

「今は事務系でも販売系でも、就職すればどこでもコンピュータは必須です。その基礎として、少なくともMicrosoft Office SpecialistのWord、Excelのスペシャリストレベルは身につけて卒業してほしいと、学生にはいつも言っています。短大では、1年生の後期になると就職活動が本格的にはじまりますので、本当は1年の夏休み中にひとつは資格を取ってほしい。就職課とも連動して、そういう情報は伝えていますが、そうは言っても入学して最初の夏休みですからね。資格取得に対する学生のモチベーションや取り組み姿勢は学生一人ひとり異なりますので、夏休み中のMicrosoft Office Specialistの補講参加者は、十数名といったところです。ところが、いざ就職活動がはじまると、“履歴書に記載するために資格を取りたい”と言ってくる学生が増えます。Microsoft Office Specialistは、学内で受験して合格すれば、履歴書に書いてすぐに就職活動に活かれますから、その点も学生にとってはメリットですね」

また、さまざまな機会に橋本教授が卒業生から話を聞くと、“在学中に、Microsoft Office SpecialistのWord、Excelの資格を取得しておいてよかった”、逆に、“学生時代に取っておけばよかった”という話をよく聞くと聞きます。

「なかには、“PowerPointまで取っておいたほうがいい”と言う卒業生もいます。おそらく、社会に出て、Word、Excel、PowerPointが使えなければ何もできないという状況を実感したんでしょうね。そうした話を聞く

と、我々も学生たちにもっとMicrosoft Office Specialistの有用性を伝え、学生のうちに資格を取って卒業させたいと思いますね。そのため学内受験や講習や補講などの機会づくりですから。社会に出て身につけたスキルを仕事に活かしてもらうためにも、より多くの学生への利用を促していきたいと考えています」

こうした状況のなか、今後の計画として横浜創英短期大学では、2004年度に実験的に行った資格取得と単位認定を結びつけるカリキュラムの復活を議論しているそうです。この計画は、Microsoft Office Specialist以外のその他の資格も含め、“資格取得を単位に認定していこう”という点については、教員の間で一致した意見になっており、いつから、どの資格を単位認定にするかを検討している段階だと言います。

「現在、2009年度、もしくは2010年度入学時から導入すべく検討しているところです。そうしたなか、Microsoft Office Specialistは採用資格の第一候補として挙がっています。何といても学内で受験できる点は大きいですね。その他の試験は受験日が決まっているので、それに縛られてしまっていますが、Microsoft Office Specialistなら、授業に合わせてこちらで試験期間を設定できますから」

情報学科の大半の学生がMicrosoft Office Specialistの資格を取得し、WordやExcelを自由に使いこなせる状態で社会へと巣立っていく——橋本教授が掲げる目標は、そう遠くない将来に実現されることでしょう。



緑豊かな丘陵に広がるキャンパスの正面玄関